

新作「夜まで待てない」と奈良美智さん。「絵を描いていても自分を画家と思うことはない。地位とか職業とかあまり意識していない」＝横浜美術館

人気画

展覧会のタイトルは価値観に絵を手を取ったんだ。水の揺らめきといった別の観の転換を表現している。「今までやってきたことレイヤーが見え隠れする。少し意地悪そうな表情の少女を真剣に再構築した」とい。女の子という記号をとれ女の絵で知られる奈良さん。う大作の一つ「春少女」で、ば、抽象画かもしれない。の作品は「知り合いや自分その思いを強くした。幾重「苦しくて描くのが大変」

23日まで。青森県立美術館(10月6日～2013年1月14日)、熊本市現代美術館(1月26日～4月14日)に巡回。

建築家・榎文彦氏が「さん太ホール」で講演



米・ニューヨークのグラウンド・ゼロ「タワー4」や新国連ビルなど世紀のプロジェクトを手掛ける世界的建築家・榎文彦氏(東京都)が来岡し、山陽新聞社さん太ホール(岡山市北区柳町)で講演。「良質なモダンイズム」と称される建築は、どうやって生み出されるのか、豊富な実例を交え、設計手法の一端を紹介した。(松島健)

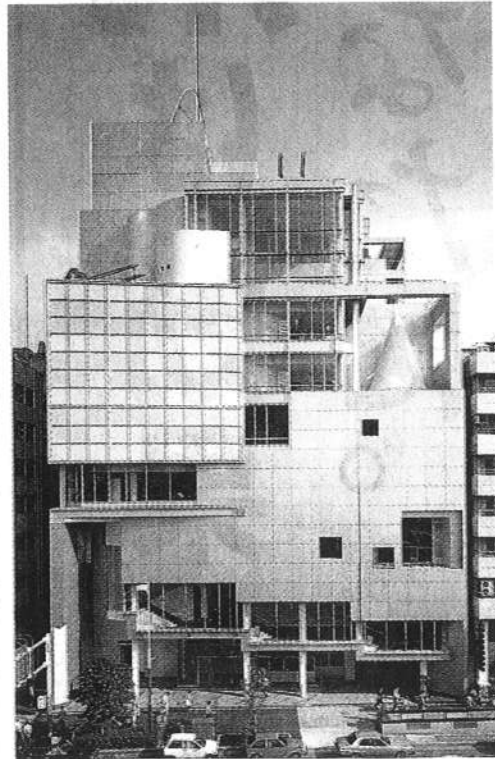
「場所づくりは(建物)を使う人が行うもの。建築家はそれを刺激するような空間を作ることが大事」とし、シンガポール国立高等技術専門学校キャンパス(2007年築)を例示。学校建築としては珍しい楕円の空間(長径246m、短径1

都市空間に“故郷”を

設計手法の一端紹介

約30年をかけて町並みを形成した東京・代官山の複合施設ヒルサイドテラスなど都市づくりと一体となった建築が高く評価される榎氏。

代表作の一つ複合施設スパイラル(東京、1985年築)では、効率的とは言えない1人用のいすを配したフ



榎氏の代表作の一つ「スパイラル」(撮影・北嶋俊治)

86m)を設けて回遊性などを促し、自由闊達な校風に寄与していることを紹介した。

「誰かが座り、くつろいでいる」と指摘。「孤

独は私の故郷」という哲学者ニーチェの言葉を引き合いに「公共の場に一

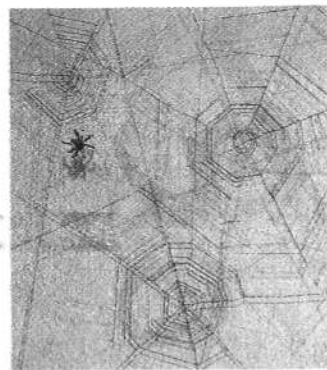
「建材の調達など、世界的な視野で『最適解』を探る時代が来ている」と語った榎氏(7日、山陽新聞社さん太ホール

インドの歴史をたどるビハール博物館(2万5千平方m)や、中国沿岸部の複合文化施設・深圳海上世界文化センター(4万6千平方m)…。6日で84歳を迎えた大御所の口から語られた現在進行中のプロジェクトはいずれも破格のスケール。建築の可能性を追い求め続けるその姿に講演後、約300人の聴衆から惜しめない拍手が送られた。

講演は日本建築家協会中国支部岡山地域会などの主催で行われた。

額作品「WEB」=写真=のシリーズ。染色した包帯をほどいた糸に銀糸を織り交ぜ、細密な手作業で特徴的な網目模様をカラフルに再現した。

1本1本の糸の張力を調整しながら形を整える作業は困難を極めたというが「自然界のリズムを作品の中に取り込むことができた」と手応えを語る。(大石哲也)



ギャラリー

▽松島千紗 WEB 岡山市中区浜、ギャラリーやぶき(086-273-7576)25日まで(19日休廊)。

染め上げた包帯で色彩の世界を織りなすテキスタイル作家松島千紗(35)＝岡山市北区櫓津＝の新作35点。

中心となるのは、「クモの巣」を題材に、「自然の巧まざる造形美」を追求し